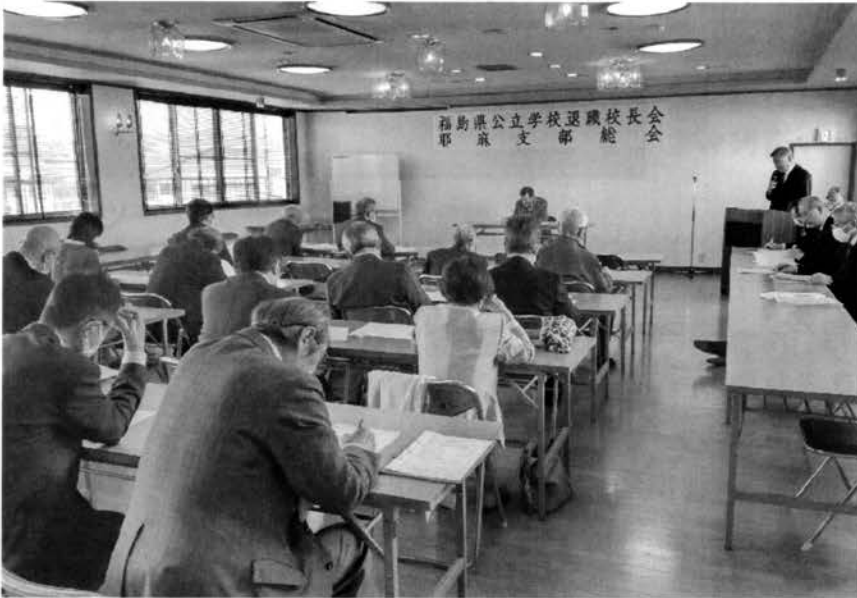
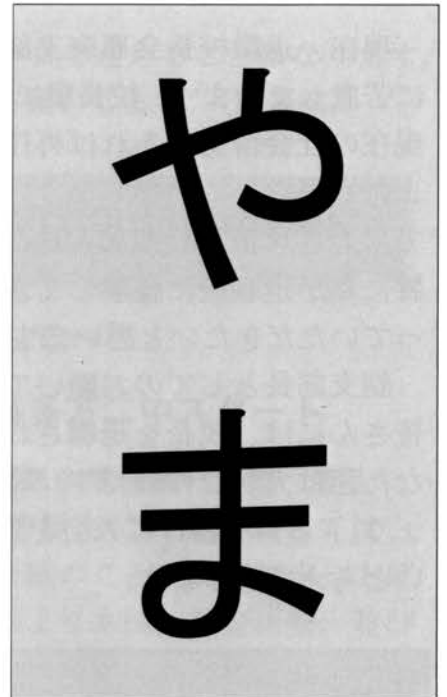




令和8年度公立学校退職校長会耶麻支部総会（4/11 新丁字屋）



福島県公立学校退職校長会耶麻支部

広 報

発行日 令和8年6月25日

発行者 支部長 阿部 充也

巻頭言 副支部長として



副支部長 猪俣 薫

私が退職して16年が経ちました。退職直後に退職校長会耶麻支部にお誘いを受け、飯豊荘で歓迎会を開いていただきました。今後、これら先輩の方々と一緒に活動していくんだと一寸した感動を覚えました。歓迎会の会話の中で『義務籍』と『高校籍』という言葉が出てきて驚きました。義務籍の皆さんが圧倒的多数の中で「何か高校籍が継子扱いのように感じます。」と苦情を申し上げ、事務局の方々を困らせた記憶があります。後でわかったのですが、小中高と一緒に活動をしているのは耶麻支部だけということで、「そうか、耶麻支部で良かったんだ。」と改めて感謝した次第です。

私は囲碁クラブとグラウンドゴルフクラブに入会し、また支部の各行事にも参加して、前述の云々を意識せず大いに満喫してきました。

種々の活動が縁で事務局広報部に入り、広報作成に携わりました。その後、『豚もおだてりや木に登る』を实践させていただき、副支部長を3期務めることとなりました。果たして6年という長期の居座りは耶麻支部にとって良かったのかどうか？

皆さんに理解していただきたいのは、私自身は十分に楽しませていただいていた、ということです。退職校長会のみならず、私は今でもいろいろな団体に関わっており、いずれの団体でも多くの友人と仲良くさせていただいております。その皆さんは、豊富な経験をお持ちで、私を含め独特の考え方をされる方がおられます。「何故そんな風に考えるのか？」と疑問に感じるときもありますが、それも個性と考えると納得できます。

意見の相違から口論となり、「会を抜ける！」と感情的になられた方もいましたが、そんな時「会を抜けたら、仲違いされた方のみならず、他の方とも会えなくなりますよ。」と説得して思いとどまってもらいました。今となってはそうした友人からも感謝されているはず、と勝手に思い込んでいます。 [次ページに続く]

現在、退職校長会耶麻支部は、会員の減少に苦慮しています。校長職にあったとはいえ、現在の社会情勢にあれば再任用等々の選択も止むを得ないことでしょう。ただ、校長として尽力され苦勞して来られた皆さんですから、特に私が退職後に経験してきた楽しさを味わっていただきたいと思います。

副支部長としてのお願いです。支部会員の皆さんには、校長を退職された皆さんに「あなた達は大切な仲間です。一緒に活動しましょう。」と声を掛けて入会を誘っていただきたいと思います。

生涯部事業計画

生涯部長 佐藤 めぐみ

1 集いの広場「たまり場」

7月11日（土）9:30～12:00 厚生会館で絵手紙づくりと囲碁を楽しみます。今回は生涯部と生活部の合同企画です。囲碁の講師は猪俣薫さん（喜多方市）です。どうぞ奮ってご参加ください。

2 「現職・退職校長教育懇談会」

8月21日（金）14:20～16:45 喜多方市立第二小学校を会場に講話と懇談会を実施します。

講師は、『株式会社ラック』サイバー・グリット・ジャパン コグニティブセキュリティ研究グループの吉岡良平様。講話題は「学校とICT～AI時代に求められる学びへのアプローチ～」です。現場への示唆はもとより、身近なAIへの不安解消や安全で便利な活用方法についてもお話を伺います。

後半は、現職・退職者の小グループ懇談です。短い時間ですが、互いに刺激ある良い機会になることと思います。

同日、懇親会も予定しています。多くの会員のご出席をお待ちします。

生活部事業計画

生活部長 鈴木 隆

《本年度より中止となった研修旅行》

4月にお知らせした研修旅行が本年度より中止となった経緯についてお伝えします。令和3年度にしばらく実施していなかった研修旅行を復活させてはという意見が聞かれました。そこで令和4年度は会員の皆様のご意向をアンケートすることになりました。アンケートの結果は、近場での日帰り旅行を希望する声が多く聞かれ、茨城県のひたちなか公園に出かける計画を立てたのですが、コロナ禍のため中止となりました。令和5年度～令和7年度の三年間は、近場の温泉へ行こうということで、「柳津温泉」方面、新潟県の「角神温泉」方面、「鹿瀬温泉」方面へ出かけてきました。経費をなるべく抑えるために車の乗り合わせなど工夫しながら実施してきました。参加者は10人～12人程度でなかなか増えない状況でした。参加者が増える見込みが立ちにくい現状のため、本年度から中止することになりました。

《1年の健康を祝う会》

今年度も『1年の健康を祝う会』を開催します。楽しく親睦を深める機会ですので、多数の皆様の参加をお待ちしています。

○期 日 令和8年11月下旬予定

○詳しい内容は10月中旬にご案内を差し上げます。

クラブ活動計画

各クラブの活動予定等をお知らせします。詳細は、総会資料をご覧ください。（広報部）

囲碁クラブ

会員数 6名

活動日 毎月第1木曜日
活動場所 喜多方市厚生会館
問合せ先 代表 猪俣 薫

グラウンドゴルフクラブ

会員数 3名
活動日 毎週2回（月曜日・水曜日）
活動場所 旧岩月中 校庭特設コート
冬季は、同講堂特設コート
問合せ先 代表 佐藤 定男

藤宝会

会員数 2名
活動日 毎月第2金曜と第3水曜日
活動場所 第2金曜：佐藤定男氏宅
第3水曜：岩月公民館
問合せ先 代表 菅井 一良

大人の遠足クラブ

会員数 10名
活動日・活動場所 年間を通して季節やイベントを考慮して計画し活動
問合せ先 代表 大堀 淨一

おめでとうございます

賀寿受賞者の皆様

江花 修 様 蓮沼 敏雄 様



喜寿会員の皆様より

昨今の様子に反省すること 田崎 敬修

喜寿のお祝いをいただきまして誠にありがとうございました。

最近、これでいいのだろうかと不安に感じることがあります。このまま突き進めば戦争に至るのではないかと思われるような言動が政治の世界に正論のように展開され、それを良しとして支持する若い世代の人々の増加は戦後生まれで戦争の惨禍を目の当たりにしていない私でさえも不安を覚えます。

教職にあった時、最も力を入れてきたのは「分かる・できる」とことと「自分の考えを持つ」ことでした。どれも満足のいくものではありませんでしたが、特に「自分の考えを持つ」ことについては不十分であったと反省しています。自分の考えというのは非常に危ういものを含んでいて、どのような考えでも自分なりに持っていればよいというものではないはずです。自分の考えと他者の考えを突き合わせ熟慮することが必要です。平和とは戦争とは何なのかという課題に正面から取り組んでこなかったことを今、反省しています。

威勢のいい言動をするリーダーに世界中の人々が熱狂しています。歴史は繰り返すと言われますが、危うい時代が周期的にやってくるのです。今はその時なのかもしれません。

雑感（農作業の寸暇から） 齋藤 敬一

過日、支部長様に実家までご足労いただき普段着のまま、有難くお受けしました。「喜寿なんて歳を重ねてただけなのに」と思って別段の事なく例年通りに、日々農作業をして過ごしているだけの毎日なのです。道端の三つの道に囲まれた一画での作業ですが、時々、車を停めて話しかける方がおります。最近の事、「元気そうね。私ができる？」と聞かれ、「誰かな？どこでお会いしたかな」と



「呟くと、「中学の同級生の〇〇だよ。実家が近くなんだよ。」との事で、暫く懐かしく話し込んだ。また、毎日定期的に通るお婆さんは80代ですが、必ず「頑張っていますね。」「暑くなる

から気をつけてね。」等と声をかけていく。それがデマンドバスでの帰り時を知らせてくれる。時には、「この位の暑さには慣れてます。なんせ温泉サウナで鍛えているから」と応える自分(笑)、中には「そのネギ苗、余ってたらず少し分けて下さい」と自己紹介しながら話しかける方や、朝夕の散歩中の人土手を下りて来て、苗の育ち具合を見ていたり、育ち方に伝授をしてくれたり賑やかにしてくれる。町内の同級生や知人は、警音を鳴らして通っていく。その都度、顔を向けてたり手を上げたりする。区切りをつけた作業を後回しにしても気ままに過ごせる日々が楽しい。休憩時は、周辺を散策して、蕨(ワラビ)や蕎麦(フキ)、ミズナ、木々の芽等を採取する。薔薇(ゼンマイ)も昼休みに採って薔薇(ムシロ)で数枚分を干し上げた。次年度も変わりなくできればいいな…と願いつつ。

日々是好日

食事会、を楽しく 五十嵐 昭義

毎月、23日に喜多野という料亭で、気の合った仲間と食事会を開催しています。メンバーは、K氏・S氏・O氏・S氏・S氏と小生詰まり五十嵐の6人で、おしゃべりしながら会食をしています。

話題は様々で多岐に渡り、誰かが好きなことを話し出すとそこから話題がすすみ、食事が運ばれて来て食べながら話をいたします。

また、メンバーも時に変わり制限はありません。幹事の役を引き受けて下さる大堀氏に出席を申し込めば、それでオーケーです。

今全国的に話題の熊の事や日常的な暮らしぶりなど、話題は豊富です。食事はこの店の特徴になっている「釜めし」が中心で、季節によっていろいろな釜めしが出ます。時間は、12時半から1時間ぐらいいで、食事が終了したら解散です。これをお読みになった方、いかがですか。参加してみませんか？

退職して20年

平野 茂穂

退職してから覚悟はしていたが、村の神職になった。戸数160戸あまりの小さな集落である。それから20年経った。

・資格が必要であり、地元のお社で30日間の神社実習になり、朝拝の作法、清掃、氏子との対応、祝詞の作成、祝詞の奉読、大祓の奉読、夕拝の作法など多くの研修を積みながら、参拝者の依頼によるご祈祷はぶっつけ本番であった。受付で祈願申し込みのあったものは、即本殿で奉読です。家内安全、健康長寿、病氣平癒、安産祈願、良縁成就、合格祈願、厄除祈願など多様で、心臓はいつも高鳴り状態でした。

・奉仕神社は、正和四年(1315年)芦名盛宗が若松諏訪神社を勧請の時、当村明神前に御神輿を安置したときが始まりとされており、同時に山神社も勧請している。本殿からの木片に記述が見付かった。

・神職としての本務は、年五回の「まつり」。諏訪神社の春まつり、例大祭、秋まつり、稲荷神社・山神社のまつりである。例大祭は、神輿渡御行列もあり村全体が活気づくが、人手が年々難しくなってきた。沿道で行列を迎える人は少なくなり、それでも2時間の巡行は清々しい。

・20年、毎年同じように取り組んできた。当初は「かたち」にこだわったが、年々「ま

つり」の祈りを深く考えるようになってきた。達観はまだしていない。

年度の役員が2年目を迎えることになります。本年もよろしくお願いします。(広報部)

新しいツールで懐かしく 富樫 康夫



一昨年40数年ぶりに大学浪人の時に同じ寮で生活していた友人と静岡県熱海市に集まりました。北は北海道から南は九州佐賀県まで、全国各地から集まってきました。還暦を過ぎて皆仕事を退職した後、何もせずにのんびり暮らす者、あるいは他の会社に入り仕事を続ける者、驚いたのは日本を出てタイに拠点を移し生活している者など、温泉につかりながらそれぞれの空白の時間を埋め合いました。そこでLineを交換し、グループLineを作りました。空白があるはずなのに、やり取りを始めると当時の空気感が瞬時に蘇ります。アイコンの中に若き日の面影を探し、言葉の端々に変わらない癖や優しさを見つけるたび、時間は残酷であると同時に、決して全てを奪い去るものではないものと実感しています。

定年後や老後という、人生の落ち着いたフェーズで再び繋がったからこそ、仕事や肩書きを抜きにした「素」の人間関係を楽しめる豊かさがあります。健康や孫の話、昔笑い合った思い出話。そうした何気ない雑談が、今の日常に彩りを添えてくれます。「昔」と「今」がLineというツールで地続きとなり、孤独を感じやすいこの時代に、温かな居場所を見つけたような穏やかな高揚感を感じています。

令和8年度耶麻支部役員

顧問の方が2名減となりましたが、令和7

教育の現場から

～希望にみちて～

新生喜多方二中スタート

喜多方市立第二中学校長 土橋 康弘

退職校長会の皆様方におかれましては、益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。また、平素より本校の教育活動、並びに耶麻地区の教育の発展に多大なるご支援と温かい見守りをいただき、心より感謝申し上げます。

今年度、第二中学校は、会北中学校との統合という歴史的な節目を迎え、伝統ある両校の精神を受け継いだ「新生・喜多方二中」として、記念すべき新たな一步を踏み出しました。

この大きな転換期に当たり、私が掲げる学校経営目標の柱は、「地域に開かれた学校づくりの推進」です。これまでの第一小地区・松山地区・上三宮地区はもとより、新たに加わった熱塩加納地区との緊密な連携を重視していきたいと考えております。学校と地域がこれまで以上に深く結びつき、協働していくことこそが、統合による新たな活力を生み出す原動力になると確信しております。

そのためにも、生徒たちには地域の行事へ積極的に参加し、地域社会の一員としての自覚を深めてほしいと願っています。また、ボランティア活動に主体的に取り組むことで、豊かな人間性と郷土愛を育むことを強く期待しているところです。

その象徴的なスタートとして、この4月には「統合記念さくらウォーク」を実施いたしました。会北中学校までの往復16kmという決して平坦ではない道のりを、教師と生徒

が互いに励まし合いながら、見事に全員で(体調不良リタイアもありましたが)完歩しました。この歩みは、新生二中がこれから確かな未来へと力強く突き進んでいく決意の現れでもあります。

諸先輩方が築かれた伝統のバトンをしっかりと引き継ぎ、校歌「希望にみちて」を体現すべく、教職員一丸となって全力を尽くす所存です。先輩方におかれましては、今後とも変わらぬご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。結びに、退職校長会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたし、執筆の挨拶といたします。



統合記念さくらウォークでの記念写真(会北中にて)

事務局だより

庶務部より 庶務部長 馬場 俊忠

○ 4月11日(土)の14時から新丁子屋において、23名の参加で耶麻支部総会が行われました。貴重なご意見やご質問をいただき、慎重審議を重ねて、今年度の事業や予算などが原案通りに可決されました。引き続き行われた懇親会には昨年度よりやや少ない16名の参加でした。総会、懇親会とももう少し多くの参加があるとよいなどの話題もありました。次年度に向け、今から体調等を整えられてよろしくお願いします。

○ 今年4月に会員の皆様へお送りした文書でお知らせいたしましたが、昨年度末にご回答いただきました「緊急連絡網の見直し」

についてのアンケート結果を受けて、今年度は緊急連絡網の配付を取りやめております。つきましては、従前通り会員の訃報について電話連絡等がほしいとのご意見もいただきましたので、訃報の連絡が必要の方には耶麻支部役員から個別に電話連絡等を差し上げるようにいたします。訃報の連絡を希望される方はお手数ではございますが、耶麻支部役員へその旨を電話等でお知らせくださるようお願いいたします。連絡方法も電話やショートメール等ご希望がございましたら付け加えてご連絡をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

会計部より 会計部長 荒明 茂樹

今年度予算の主な特徴は、次のとおりです。

- (1) 令和8年度の支部会員は66名です。
- (2) 地区の現職校長先生方から賛助金をいただいています(小中28、高3)。
- (3) 一般会計から特別慶弔会計への繰り入れは、2万円とします。

今年度は、特に以下の点に留意して取り組んでまいります。

- 昨今の各種値上げに対し、節約を心がける。
 - 郵送費値上げに対し、メールの活用を図る。
- ご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

広報部事業計画と編集後記

広報部長 吉田 佳正

「今年度も8ページ建てで年2回の発行に努めるとともに、内容の充実を図る。」と総会の場合でも発言しましたが、早速今回は、原稿執筆を固辞される方が多く、6ページ建ての紙面となってしまいました。しかし、そのような中でもここに6月発行分をお届けすることができ、大変うれしく感じております。誌面づくりへのご理解・ご協力、今後ともよろしくお願いいたします。